このハイキングコースは往復1km弱で、太良峡の谷底および藤琴川の川岸へと続いており、ブナと樹齢200年のスギの混交林を抜ける下り坂となっている。

太良峡は、世界自然遺産白神山地の核心地域の外にあるが、保護林の特徴の多くを有している。51ヘクタールに及ぶこの峡谷には、100種以上の樹木がある。ハイキングコース沿いには、マタタビ（キウイフルーツの仲間）やエビガライチゴ（ラズベリーの一種）などの果樹が育つ。エビガライチゴは、「クマイチゴ」と呼ばれることもあり、ここに棲むツキノワグマの好物である。

クマのほかには、ニホンザル、ニホンモモンガがこの森に住んでいる。オオルリやとヤマセミが木と木の間を飛び交う。

多くの巨岩がハイキングコースを縁どり、藤琴川のほとりに並んでいる。短い距離の脇道がメインコースから分かれ、川沿いに続いている。水際から北に位牌岩が見える。この巨大な石板は、仏教の位牌に似ていることからそのように名付けられた。メインコースは位牌岩を少し過ぎたところまで続き、廃線となった路線の鉄橋が見える小さな開けた場所が終点である。かつてはこの地点より先まで続いていたが、2013年の地滑りにより残りの道が崩れてしまった。

ハイキングコースには急勾配で滑りやすい箇所がある。歩くのが難しい場合は、近くの太良橋から太良峡を一望することができる。